

「つながり」について

内田 智士

はじめに

本稿では「つながり」をキーワードとしたいいくつかの事柄について、関連する資料を引用しつつ筆者の考えを述べたい。

中国の武漢に端を発するコロナウイルス騒動では、人と近づいてはいけないう距離をとることが良いことである、というメッセージが発せられ続けてきた。全世界的に、他者と距離をとることが推奨されたのは、人類史上初めてのことなのではないだろうか。このような社会情勢と、映像をリアルタイムで遠方に送る技術の発達とが相まって、これまで当たり前と思われてきた他者との関わり方に見直しがなされつつある。

また近年、SNSが普及し、リアルでない世界における他者とのつながりがますます広がっている。スマホやPCを介したつながりが、実生活に影響を及ぼす例も珍しくない。SNSでの他者とのやり取りに楽しみを見出し、SNSがあつてよかったと感じる人がいる一方で、SNS上では他者と容易につながることができるため、

ネット上での「つながりすぎた」人間関係に疲れを感じる人もいる。いずれにせよ、SNSも他者とのつながり方に変化をもたらしている。

このように、社会では他者との関係性やつながり方に変化が起きているわけであるが、人類はこれまで、他の動物以上に他者との関わりやつながりに依存して生きてきたわけで、近年の社会情勢に変化があるといってもその本質的な部分に変わりはないだろう。本稿ではつながりに関するこの不変の部分について述べていきたい。

「つながり」と幸福

幸福に関する常識と反常識

この章では、他者とのつながりと幸福感との関連について述べていきたいと思う。

通常、幸福を感じるためには、自分の置かれている環境が充実することが必要であり、またそれさえあれば十分であると考えられている。では「自分の置かれている環境が充実すること」とは何だろうか。様々なことが該当するだろうが、代表的なものとしては日常生活における客観的な側面の充実、例えば金銭的・物質的な裕福さが挙げられるだろう。また、肉体的健康も重要であると思われる。さらには、社会的ステータスや名声が幸福感の尺度であると考ええる人もいるかもしれない。これらを総合した充足度が、「環境の充実」であると考えられる。

そうすると、「金銭や物、健康、社会的ステータス・名声などが充足されている状態」が幸福をもたらす原因なのだろうか。通常はそうのように考えられていて、それはある意味では常識となっている。そのため人は、幸福になるためにそれらの要素を追い求めているし、逆にそれらに充足を感じられない（不足を感じている）場合は、